

石川 県 学校保健統計調査

平成 18 年度



 石川県県民文化局

はじめに

学校保健統計調査は、児童、生徒及び幼児の発育状態及び健康状態を明らかにし、学校保健行政上の基礎資料を得ることを目的としており、統計法（昭和22年法律第18号）に基づく指定統計第15号として、文部科学省が昭和23年以降毎年実施しているものです。

この報告書は、平成18年度に実施した「学校保健統計調査」の結果をまとめたものであり、学校保健行政推進の一助として、広く関係各方面において活用していただければ幸いです。

なお、調査の実施にあたり、多大なご協力をいただきました各学校、各幼稚園、関係各位に対し厚くお礼申し上げますとともに、今後とも一層のご協力を賜わりますようお願いいたします。

平成19年2月

石川県県民文化局長 森 久規

目 次

利用者のみなさんへ	1
調査結果の概要	3
Ⅰ 発育状態	3
1 平均体格	3
(1) 各年齢間の体格差	3
(2) 男女の体格差	4
2 30年前の昭和51年度の体格との比較	5
(1) 17歳（高校3年生）の体格の比較	5
(2) 体格差の最も大きい年齢	5
3 30年前の発育量との比較	6
(1) 総発育量の比較	6
(2) 年間発育量の最も大きい年齢	6
Ⅱ 健康状態	8
1 疾病・異常の被患率状況	8
2 主な疾病・異常被患率の推移	8
Ⅲ 全国値との比較	11
1 発育状態	11
(1) 全国平均体格との差	11
(2) 総発育量の全国平均値との比較	12
(3) 17歳の身長 of 全国平均値との比較	12
(4) 肥満傾向児の出現率の全国平均値との比較	12
(5) 痩身傾向児の出現率の全国平均値との比較	13
2 健康状態	13
主な疾病・異常被患率の全国平均値との比較	13
統 計 表	
別表1 年齢別、男女別体格の平均値及び標準偏差（全国、石川県）	17
別表2 年次別、年齢別、男女別身体計測値の推移（全国、石川県）	19
別表3 学校種類別、男女別疾病・異常被患率（全国、石川県）	21
別表4 主な疾病・異常被患率の推移（全国、石川県）	23
別表5 年次別、男女別、発育量の推移（石川県）	25
付 属 資 料	
都道府県別 身長・体重・座高の平均値及び標準偏差	26

利用者のみなさんへ

1 調査の目的

この調査は、児童、生徒及び幼児の発育及び健康状態を明らかにし、学校保健行政上の基礎資料を得ることを目的とする。

2 調査の範囲・対象

- (1) 調査の範囲は、小学校、中学校、高等学校及び幼稚園のうち、文部科学大臣があらかじめ指定した学校(以下「調査実施校」という。)である。
- (2) 調査の対象は、調査実施校に在籍する満5歳から17歳(平成18年4月1日現在)までの児童、生徒及び幼児の一部である。

3 調査期日及び項目

平成18年4月から6月までの間に実施された学校保健法による健康診断結果に基づき下記の事項について調査した。

- (1) 児童、生徒及び幼児の発育状態(身長、体重、座高)に関する事項
- (2) 児童、生徒及び幼児の健康状態(疾病・異常)に関する事項

聴力検査(難聴)、結核検査、結核に関する検査、心電図検査、尿糖検査、寄生虫卵検査、永久歯のう歯等数については調査対象年齢(学年)が次表のとおり限定されている。

区 分	幼稚園	小 学 校						中 学 校			高 等 学 校			
	5歳	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
聴 力 検 査	—	○	○	○	—	○	—	○	—	○	—	○	—	○
結 核 検 査	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—
結核に関する検診	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—
心 電 図 検 査	—	○	—	—	—	—	—	○	—	—	○	—	—	—
尿 糖 検 査	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
寄 生 虫 卵 検 査	○	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
永久歯のう歯等数	—	—	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—
上記以外の検査	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

(注) ○印は調査対象年齢である。

4 調査の範囲・対象・抽出の方法

調査における標本抽出の方法は、各学校種毎に調査実施校を抽出し、抽出された学校から更に発育状態調査では、全体を代表するように児童、生徒及び幼児を抽出する。また、健康状態調査では、調査実施校の在学者全員を対象としている。

なお、標本抽出の結果、得られた調査対象者数は次表のとおりである。

区 分	学 校 総 数 (校)	児 童 ・ 生 徒 ・ 幼 児 総 数 (人)	調 査 実 施 校 数 (校)	調 査 対 象 者 数 (人)	
				発 育 状 態	健 康 状 態
総 数	488	144,457	149	12,918	64,565
小 学 校	238	68,295	58	5,383	26,818
中 学 校	110	33,751	37	4,215	17,904
高 等 学 校	62	33,845	25	2,250	18,404
幼 稚 園	78	8,566	29	1,070	1,439

5 利用上の注意

- (1) 体格、体型値については、小数第2位を四捨五入し、標準偏差及び疾病率については、少数第3位を四捨五入した。
- (2) 統計表の符号の用法は、皆無「－」、調査対象外「…」、単位未満「0.0」「0.00」、減少「△」とした。
- (3) [X]は疾病・異常の被患率等の標準誤差5%以上、受検者数が100人(5歳児は50人)未満又は回答校が1校以下のため統計数値を公表しない。
- (4) この報告書の数値については、後日文科科学省が発表する「平成18年度学校保健統計調査」の数値を確定値とする。

調査結果の概要

I 発育状態

1 平均体格 (表1、図1、別表1参照)

平成18年度の小学校、中学校、高等学校及び幼稚園における児童、生徒、及び幼児の身長、体重及び座高の平均値を年齢別、男女別にみると次のとおりである。

(1) 各年齢間の体格差

① 身長

男子は、12歳と13歳の間が7.8cmと最も大きく、16歳と17歳の間が0.9cmと最も小さい。女子は、9歳と10歳の間が7.6cmと最も大きく、15歳と16歳の間と16歳と17歳の間で0.2cmと最も小さい。

② 体重

男子は、11歳と12歳の間が5.7kgと最も大きく、16歳と17歳の間が1.7kgと最も小さい。女子は、10歳と11歳の間が5.4kgと最も大きく、16歳と17歳の間が-0.1kgと最も小さい。

③ 座高

男子は、11歳と12歳の間が3.8cmと最も大きく、15歳と16歳の間が0.8cmと最も小さい。女子は、9歳と10歳の間が3.7cmと最も大きく、14歳と15歳の間では-0.1cmと最も小さい。

表1 年齢別、男女別体格の平均値と男女差

区分		身長 (cm)			体重 (kg)			座高 (cm)		
		男子	女子	差	男子	女子	差	男子	女子	差
幼稚園	5歳	111.4	110.4	1.0	19.3	18.6	0.7	62.3	61.9	0.4
	6歳	116.7	116.0	0.7	21.7	21.3	0.4	65.1	64.9	0.2
小学校	7歳	122.7	122.2	0.5	24.3	23.9	0.4	67.9	67.7	0.2
	8歳	128.4	127.7	0.7	27.5	26.9	0.6	70.6	70.2	0.4
	9歳	133.8	133.1	0.7	31.2	29.6	1.6	73.0	72.7	0.3
	10歳	139.3	140.7	△1.4	35.2	34.5	0.7	75.4	76.4	△1.0
	11歳	145.1	147.4	△2.3	38.8	39.9	△1.1	78.0	79.6	△1.6
中学校	12歳	152.8	153.3	△0.5	44.5	45.0	△0.5	81.8	83.0	△1.2
	13歳	160.6	155.6	5.0	49.7	48.0	1.7	85.5	84.3	1.2
	14歳	166.0	157.5	8.5	54.4	50.4	4.0	88.6	85.4	3.2
高等学校	15歳	168.9	157.8	11.1	60.0	51.9	8.1	90.4	85.3	5.1
	16歳	170.8	158.0	12.8	62.9	54.2	8.7	91.2	85.7	5.5
	17歳	171.7	158.2	13.5	64.6	54.1	10.5	92.1	85.8	6.3

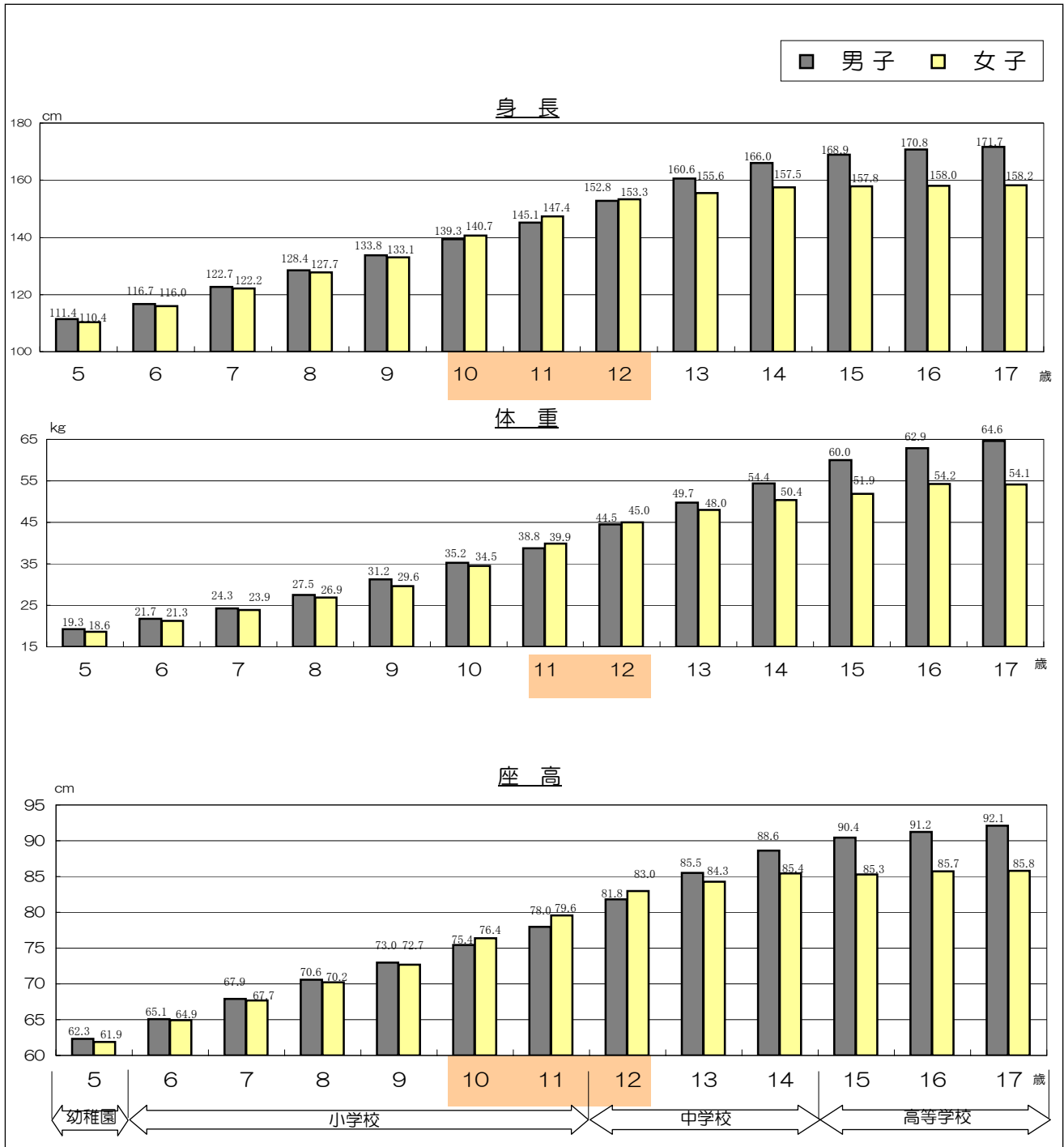
(注)1 「差」は、男子の数値から女子の数値を差し引いたものである。

(注)2 網掛けの部分は調査実施以来最高を示す。

(2) 男女の体格差

女子が男子を上回る発育年齢は、身長では10、11、12歳、体重では11、12歳、座高では10、11、12歳で、その差の最大は、身長では11歳の2.3cm、体重では11歳の1.1kg、座高では11歳の1.6cmとなっている。この時期を過ぎると男子が女子を上回り、17歳での差は、身長13.5cm、体重10.5kg、座高6.3cmとなっている。

図1 男女別、年齢別平均体格



2 30年前の昭和51年度の体格との比較 (表2、別表2参照)

平成18年度と30年前の昭和51年度の体格を比較してみると、身長、体重、座高すべてにおいて向上している。

(1) 17歳(高校3年生)の体格の比較

17歳の体格を比較すると、30年前に比べて男子は身長が2.1cm高く、体重が4.3kg多く、座高が1.4cm高くなっている。女子は身長が1.1cm高く、体重が0.8kg多く、座高が0.7cm高くなっている。

(2) 体格差の最も大きい年齢

30年前と比べ最も差の大きい年齢は、男子は身長13歳、体重17歳、座高12歳となっている。女子は身長12歳、体重12歳、座高12歳となっている。

表2 30年前の体格との比較

区 分	身 長 (cm)			体 重 (kg)			座 高 (cm)					
	平 成 18年度	昭 和 51年度	差	平 成 18年度	昭 和 51年度	差	平 成 18年度	昭 和 51年度	差			
男 子	幼 稚 園	5 歳	111.4	110.2	1.2	19.3	18.7	0.6	62.3	61.9	0.4	
		6 歳	116.7	115.6	1.1	21.7	20.8	0.9	65.1	64.7	0.4	
	小 学 校	7 歳	122.7	121.2	1.5	24.3	23.1	1.2	67.9	67.3	0.6	
		8 歳	128.4	126.9	1.5	27.5	26.1	1.4	70.6	69.6	1.0	
		9 歳	133.8	131.4	2.4	31.2	28.5	2.7	73.0	71.9	1.1	
		10歳	139.3	137.3	2.0	35.2	32.4	2.8	75.4	74.2	1.2	
		11歳	145.1	143.1	2.0	38.8	36.2	2.6	78.0	76.7	1.3	
	中 学 校	12歳	152.8	149.7	3.1	44.5	40.6	3.9	81.8	79.7	2.1	
		13歳	160.6	157.3	3.3	49.7	46.4	3.3	85.5	83.5	2.0	
		14歳	166.0	163.3	2.7	54.4	52.0	2.4	88.6	86.8	1.8	
	高 等 学 校	15歳	168.9	166.7	2.2	60.0	56.5	3.5	90.4	89.1	1.3	
		16歳	170.8	168.5	2.3	62.9	58.9	4.0	91.2	90.1	1.1	
		17歳	171.7	169.6	2.1	64.6	60.3	4.3	92.1	90.7	1.4	
	女 子	幼 稚 園	5 歳	110.4	109.7	0.7	18.6	18.5	0.1	61.9	61.7	0.2
			6 歳	116.0	114.9	1.1	21.3	20.2	1.1	64.9	64.2	0.7
		小 学 校	7 歳	122.2	120.5	1.7	23.9	22.7	1.2	67.7	66.9	0.8
			8 歳	127.7	126.3	1.4	26.9	25.5	1.4	70.2	69.3	0.9
9 歳			133.1	131.7	1.4	29.6	28.5	1.1	72.7	71.7	1.0	
10歳			140.7	138.7	2.0	34.5	32.8	1.7	76.4	75.1	1.3	
11歳			147.4	145.3	2.1	39.9	37.6	2.3	79.6	78.4	1.2	
中 学 校		12歳	153.3	150.9	2.4	45.0	42.5	2.5	83.0	81.5	1.5	
		13歳	155.6	154.2	1.4	48.0	46.6	1.4	84.3	83.3	1.0	
		14歳	157.5	155.8	1.7	50.4	49.7	0.7	85.4	84.3	1.1	
高 等 学 校		15歳	157.8	156.5	1.3	51.9	51.7	0.2	85.3	84.8	0.5	
		16歳	158.0	156.9	1.1	54.2	52.4	1.8	85.7	85.1	0.6	
		17歳	158.2	157.1	1.1	54.1	53.3	0.8	85.8	85.1	0.7	

3 30年前の発育量との比較 (表3、図2、別表5参照)

5歳から17歳まで12年間の総発育量と年間発育量の最も大きい年齢について、今年度調査の17歳(昭和63年度生まれ)と30年前調査の17歳(昭和33年度生まれ)を比較すると、次のとおりである。

(1) 総発育量の比較

今年度17歳の総発育量を30年前と比較すると、身長では男子0.4cm減、女子1.2cm減、体重では男子3.1kg増、女子変化なし、座高では男子1.0cm増、女子0.1cm増となっている。

(2) 年間発育量の最も大きい年齢

今年度17歳をみると、男子は身長は11歳時、体重は11歳・12歳時、座高は11歳時の年間発育量が最も大きく、女子は身長10歳時、体重10歳時、座高5歳・10歳時の年間発育量が最も大きい。

一方、30年前の17歳は、男子は身長、体重、座高ともに12歳時の年間発育量が最も大きく、女子は身長9歳時、体重11歳・12歳時、座高10歳時の年間発育量が最も大きい。

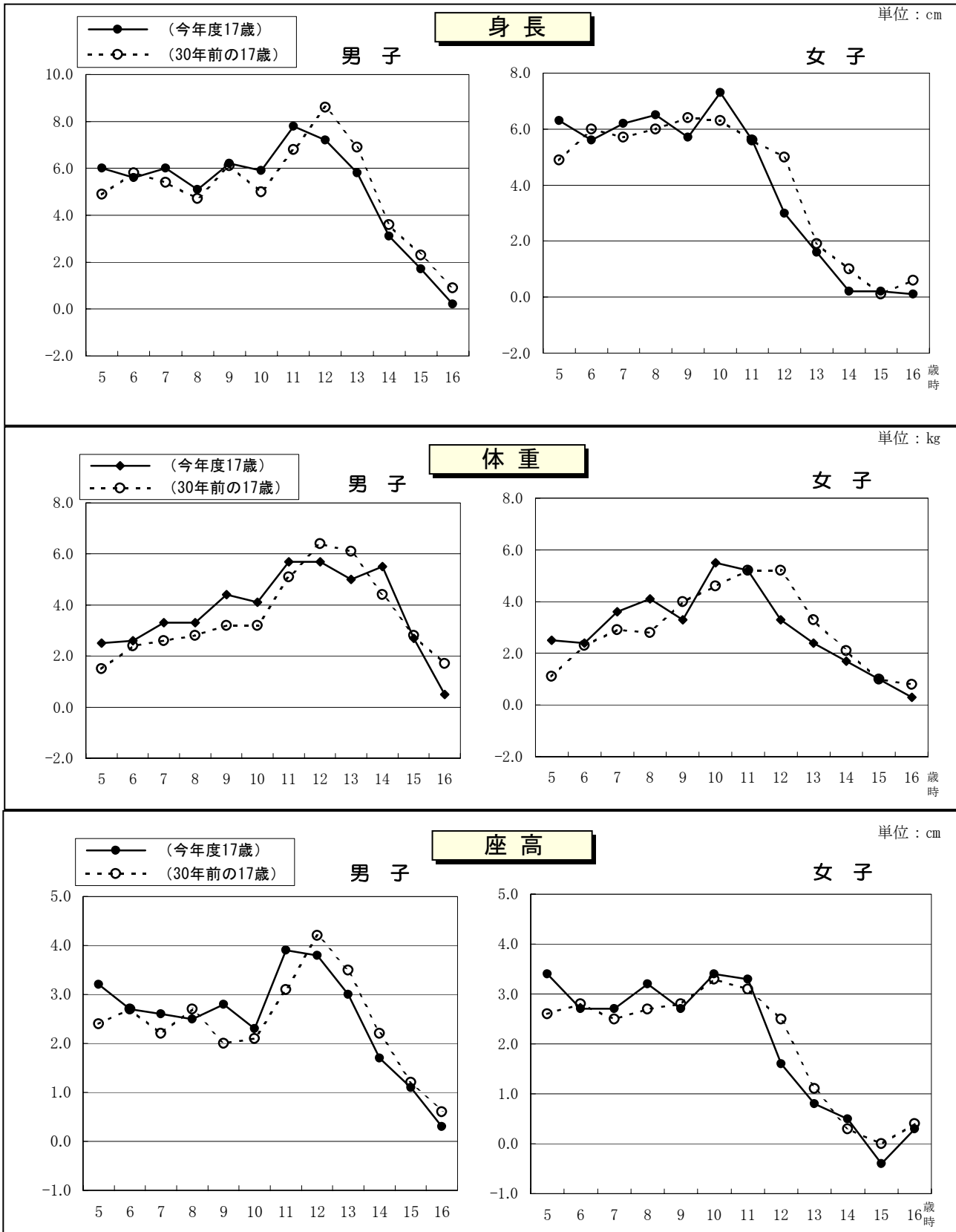
表3 年次別、男女別、発育量の比較

区 分		男 子				女 子			
		5歳時の体格	17歳時の体格	総発育量	年間発育量最大の年齢	5歳時の体格	17歳時の体格	総発育量	年間発育量最大の年齢
身長 cm	昭和 33 年度生まれ	108.6	169.6	61.0	12歳時	107.6	157.1	49.5	9歳時
	43	109.9	170.8	60.9	12歳時	109.2	158.3	49.1	10歳時
	53	111.2	171.5	60.3	10歳・11歳時	110.4	158.8	48.4	10歳時
	58	111.2	171.7	60.5	12歳時	110.4	159.0	48.6	9歳時
	63	111.1	171.7	60.6	11歳時	109.9	158.2	48.3	10歳時
体 重 kg	昭和 33 年度生まれ	18.1	60.3	42.2	12歳時	18.0	53.3	35.3	11歳・12歳時
	43	18.7	62.8	44.1	13歳時	18.4	53.3	34.9	11歳時
	53	19.2	63.0	43.8	13歳時	18.9	54.0	35.1	10歳時
	58	19.3	64.4	45.1	11歳時	19.0	53.5	34.5	11歳時
	63	19.3	64.6	45.3	11歳・12歳時	18.8	54.1	35.3	10歳時
座 高 cm	昭和 33 年度生まれ	61.8	90.7	28.9	12歳時	61.0	85.1	24.1	10歳時
	43	62.1	91.6	29.5	11歳時	61.5	85.6	24.1	11歳時
	53	62.5	91.9	29.4	11歳時	62.1	85.7	23.6	10歳時
	58	62.6	92.0	29.4	11歳時	62.1	85.8	23.7	11歳時
	63	62.2	92.1	29.9	11歳時	61.6	85.8	24.2	5歳・10歳時

(注)1 総発育量とは、例えば33年度生まれの総発育量は、33年度生まれの「17歳時の体格」から「5歳時の体格」を引いたものである。

(注)2 出生年度については、例えば、「昭和33年度生まれ」とは、33年4月2日から翌年4月1日までに生まれた者をいう。

図2 年間発育量の30年前との比較



(注) 年間発育量とは、例えば、昭和63年度生まれの「5歳時」の年間発育量は、平成7年度調査の6歳の者の体位から前年度調査5歳の者の体位を引いたものである。

II 健康状態

1 疾病・異常の被患率状況(表4、別表3参照)

平成18年度の定期健康診断における児童、生徒及び幼児の各疾病・異常の被患率は、男女とも「う歯の者(処置完了者＋未処置歯のある者)」が各学校種とも第1位を占め、被患率も幼稚園が53.20%、小学校71.52%、中学校66.66%、高等学校71.17%と他に比較して圧倒的に高くなっている。

第2位は小学校・中学校においては「裸眼視力1.0未満の者」で、被患率は小学校が29.45%、中学校51.41%、幼稚園では「口腔咽喉疾患・異常」で2.24%、高等学校では「歯垢の状態」で6.25%の被患率となっている。

表4 主な疾病・異常被患率

順位	幼稚園		小学校		中学校		高等学校	
	区分	%	区分	%	区分	%	区分	%
1	う 歯	53.20	う 歯	71.52	う 歯	66.66	う 歯	71.17
2	口腔咽喉疾患・異常	2.24	裸眼視力1.0未満	29.45	裸眼視力1.0未満	51.41	歯垢の状態	6.25
3	アトピー性皮膚炎	1.91	鼻・副鼻腔疾患	9.86	歯垢の状態	9.40	歯肉の状態	4.21
4	歯列・咬合	1.70	歯列・咬合	4.16	鼻・副鼻腔疾患	6.28	鼻・副鼻腔疾患	3.82
5	ぜん息	0.64	眼の疾病・異常	4.03	歯肉の状態	5.22	歯列・咬合	3.34

(注)幼稚園・高等学校の「裸眼視力1.0未満」は公表されていない。

2 主な疾病・異常被患率の推移(別表3・4参照)

◎栄養状態(今年度調査分から、栄養不良と肥満傾向の調査項目が統合された)

平成18年度の「栄養状態」の者(学校医から栄養不良又は肥満傾向で特に注意を要すると判定された者)の割合は、幼稚園が0.12%、小学校が1.14%、中学校が0.75%、高等学校が0.50%となっている。

◎鼻・副鼻腔疾患

平成18年度の「鼻・副鼻腔疾患」(蓄のう症、アレルギー性鼻炎等)の被患率は、幼稚園が0.09%、小学校が9.86%、中学校が6.28%、高等学校が3.82%となっており、中学校、高等学校において前年度より減少している。

◎寄生虫卵保有(幼稚園及び小学校のみ)

平成18年度の「寄生虫卵保有者」の割合は、幼稚園が0.35%、小学校が1.27%となっており、年度によって増減はあるものの減少傾向にある。

◎心電図異常(6歳、12歳及び15歳時のみ)

平成18年度の「心電図異常」の者の割合は、小学校(6歳)が2.06%、中学校(12歳)が4.37%、高等学校(15歳)が2.28%となっており、高等学校において前年度より減少している。

◎ぜん息

平成18年度の「ぜん息」の被患率は、幼稚園が0.64%、小学校が2.12%、中学校が1.61%、高等学校が0.82%となっており、年度によって増減はあるものの近年増加傾向にある。

◎う 歯（表5・別表3参照）

「う歯」の被患率について過去の推移をみると、すべての各学校種において多少の増減はあるものの減少傾向にある。

また、平成18年度の被患率を平成9年度と比べると、幼稚園で26.66ポイント、小学校で17.22ポイント、中学校で21.49ポイント、高等学校で22.42ポイント減少している。

また、12歳の永久歯の平均う歯等数は1.90本となり前年度の2.05本を下回った。

表5 う歯の処置完了状況等の推移

単位：%

区 分	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	
幼稚園	計	79.86	69.62	60.71	69.96	66.51	59.09	59.49	66.67	58.86	53.20
	処置完了者	32.50	26.62	26.02	30.84	29.05	20.82	20.40	25.82	24.49	20.41
	未処置歯のある者	47.36	42.99	34.69	39.12	37.46	38.27	39.08	40.84	34.37	32.79
小学校	計	88.74	86.32	86.26	80.02	81.18	77.05	77.23	73.25	73.46	71.52
	処置完了者	35.58	36.93	39.14	34.16	36.84	33.20	35.15	32.64	32.78	30.86
	未処置歯のある者	53.16	49.39	47.11	45.85	44.34	43.84	42.08	40.60	40.67	40.66
中学校	計	88.15	88.83	84.25	81.30	82.04	78.27	74.61	78.09	69.17	66.66
	処置完了者	47.34	46.48	48.87	44.21	45.12	42.00	40.10	43.81	37.98	34.88
	未処置歯のある者	40.80	42.35	35.38	37.08	36.92	36.27	34.52	34.29	31.19	31.77
高等学校	計	93.59	89.12	91.88	88.08	88.40	85.93	83.15	78.29	73.99	71.17
	処置完了者	53.01	47.22	51.30	51.16	49.40	49.52	51.54	44.38	43.53	38.19
	未処置歯のある者	40.57	41.91	40.59	36.93	39.00	36.41	31.61	33.91	30.46	32.98

(注) 四捨五入の関係で項目計と内訳が一致しないことがある。

◎裸眼視力（表6参照）

「裸眼視力1.0未満の者」の被患率についての過去の推移をみると、すべての各学校種別においてそれぞれ増減を繰り返している。

また、平成18年度の被患率を平成9年度と比べると、小学校では1.78ポイントの増加、中学校では3.89ポイント減少している。ただし、幼稚園と高等学校の今年度の被患率は公表されていない。

表6 裸眼視力1.0未満の者の推移

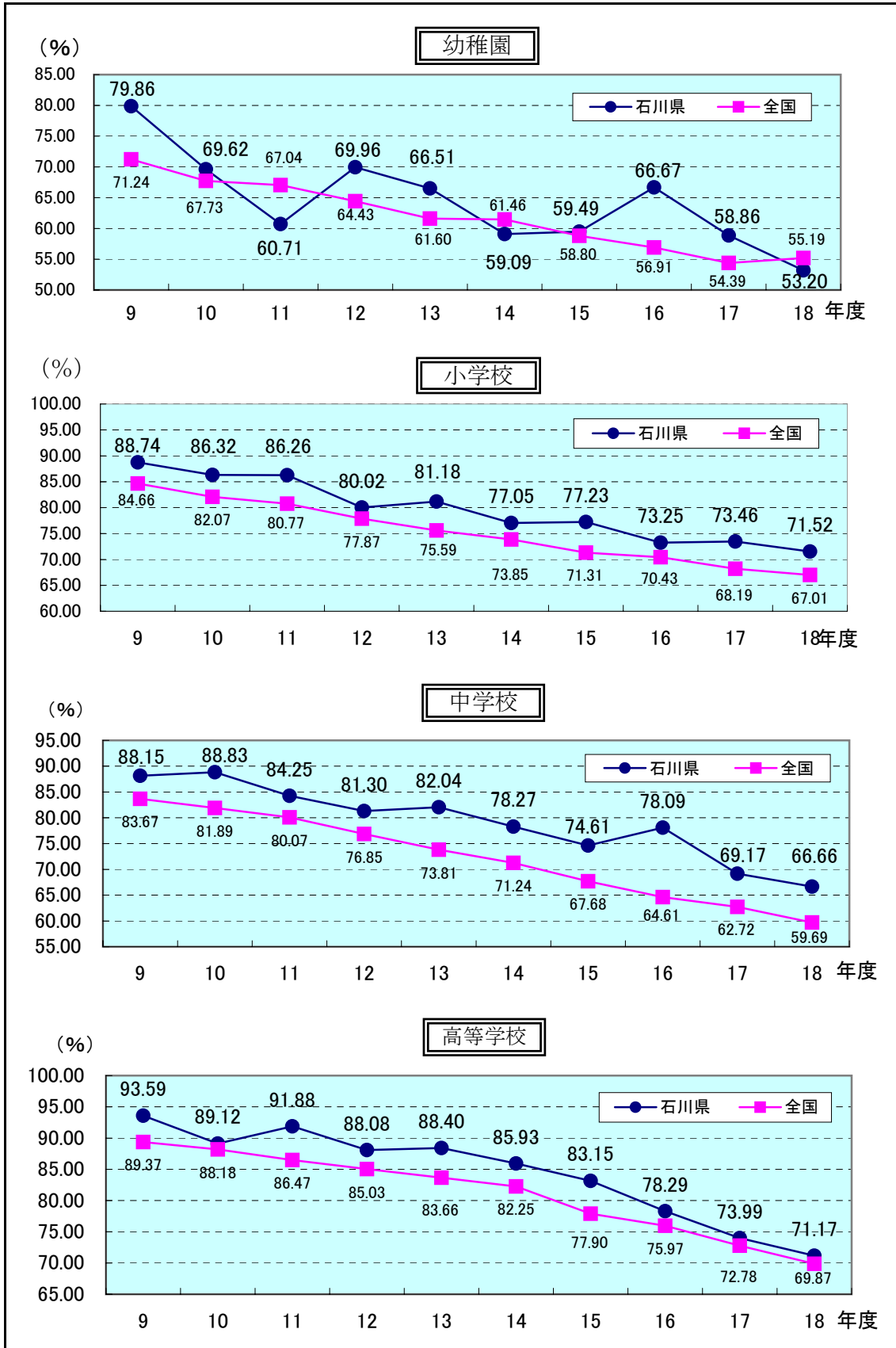
単位：%

区 分	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	
幼稚園	計	5.06	9.96	7.63	47.97	15.56	25.32	36.73	23.22	10.65	x
	1.0未満0.7以上	3.26	6.67	5.64	31.20	11.66	15.62	24.40	14.66	6.63	x
	0.7未満0.3以上	1.80	2.97	1.90	15.33	3.65	8.58	12.33	7.91	3.65	x
	0.3未満	-	0.32	0.09	1.43	0.25	1.12	-	0.66	0.37	x
小学校	計	27.67	29.65	28.00	27.71	27.15	30.39	27.82	28.57	28.49	29.45
	1.0未満0.7以上	10.49	11.78	10.50	10.70	10.37	11.94	10.70	11.49	10.79	10.89
	0.7未満0.3以上	11.07	11.01	10.86	10.84	10.47	11.83	11.50	11.24	11.65	12.28
	0.3未満	6.11	6.86	6.65	6.17	6.31	6.62	5.62	5.84	6.05	6.29
中学校	計	55.30	57.83	53.01	58.36	55.65	55.40	52.46	53.26	56.11	51.41
	1.0未満0.7以上	11.05	10.77	9.32	11.36	11.13	9.83	10.22	9.75	10.28	7.14
	0.7未満0.3以上	18.66	18.30	18.75	20.32	20.87	17.49	19.37	16.91	18.61	20.09
	0.3未満	25.59	28.75	24.93	26.68	23.65	28.08	22.87	26.60	27.22	24.18
高等学校	計	60.70	68.63	71.46	74.26	75.29	74.96	71.61	71.29	64.07	x
	1.0未満0.7以上	9.60	10.39	9.56	10.04	8.31	8.96	9.67	8.90	19.18	x
	0.7未満0.3以上	16.53	15.85	15.03	15.18	14.48	13.79	16.30	13.74	16.58	x
	0.3未満	34.58	42.39	46.87	49.05	52.50	52.20	45.63	48.64	28.31	x

(注1) 四捨五入の関係で項目計と内訳が一致しないことがある。

(注2) [X]は疾病・異常被患率等の標準誤差が5%以上、受検者数が100人(5歳は50人)未満または回答校が1校以下のため統計数値を公表しない。

う歯の被患率の推移



Ⅲ 全国値との比較

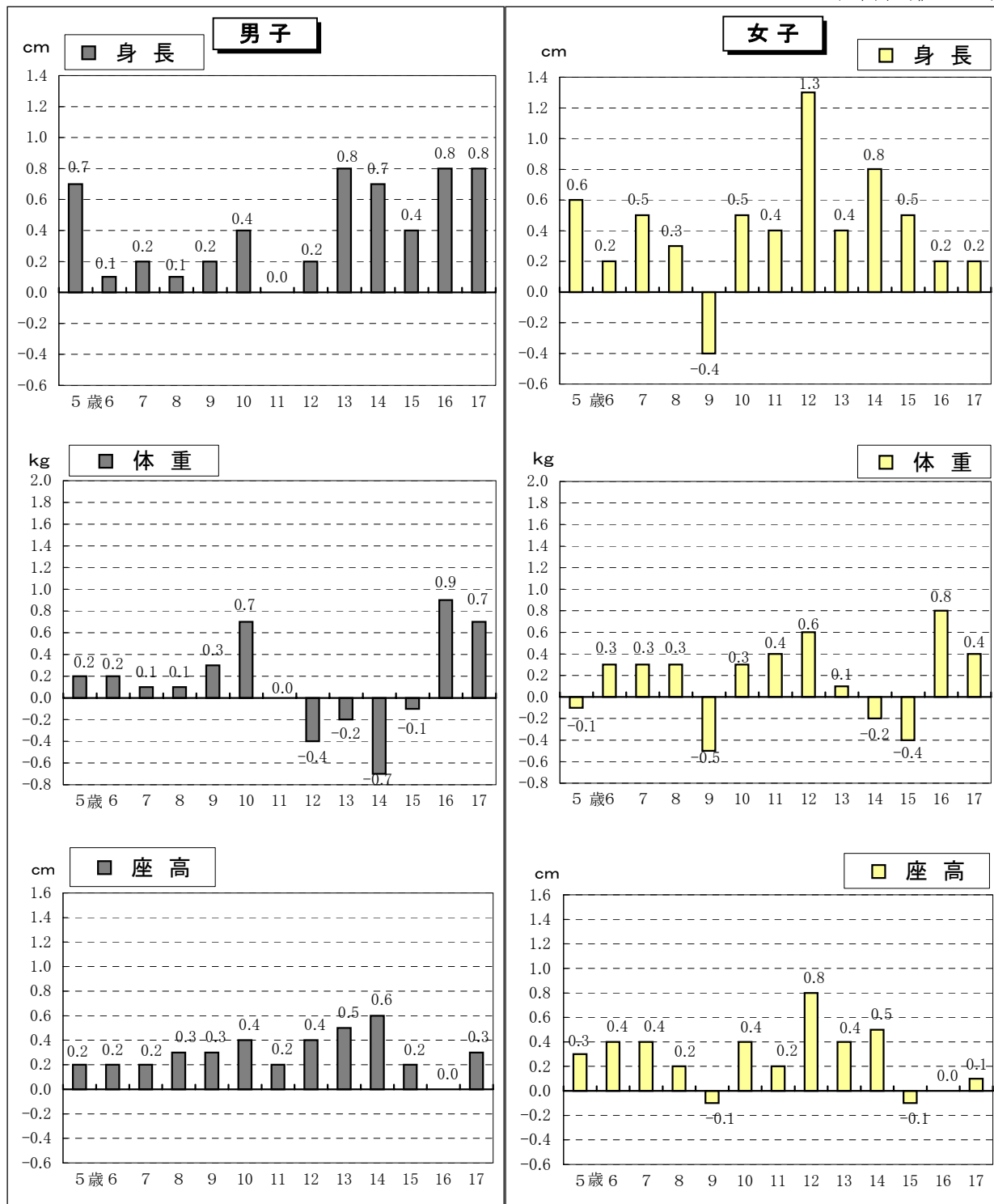
1 発育状態

(1) 全国平均体格との差 (図3、別表1参照)

身長では、男子が全年齢で、女子は9歳を除く全年齢で全国平均値と同数値または上回っている。体重では、男子が12、13、14、15歳を除く全年齢で、女子が5、9、14、15歳を除く全年齢で全国平均値と同数値または上回っている。座高では全年齢で、女子は9、15歳を除く全年齢で全国平均値と同数値または上回っている。

図3 男女別、年齢別体格の全国平均値との差

(全国平均値 = 0.0)



(2) 総発育量の全国平均値との比較 (表7、別表5参照)

17歳の総発育量を比較すると、男子は身長0.6cm、体重0.7kg、座高は0.5cm全国平均値を上回っている。女子は身長0.3cm、体重0.5kg、座高は0.5cm全国平均値を上回っている。

表7 男女別、総発育量の全国平均値との比較

区分	男子(63年度生まれ)			女子(63年度生まれ)			
	5歳時の体格 A	17歳時の体格 B	総発育量 B-A	5歳時の体格 A	17歳時の体格 B	総発育量 B-A	
身長 cm	石川県	111.1	171.7	60.6	109.9	158.2	48.3
	全国	110.9	170.9	60.0	110.0	158.0	48.0
体重 kg	石川県	19.3	64.6	45.3	18.8	54.1	35.3
	全国	19.3	63.9	44.6	18.9	53.7	34.8
座高 cm	石川県	62.2	92.1	29.9	61.6	85.8	24.2
	全国	62.4	91.8	29.4	62.0	85.7	23.7

(3) 17歳の身長の全国平均値との比較 (図6、図7参照)

17歳の身長を全国値と比較すると、石川県は男女ともに全国平均値を上回っている。また、北海道から近畿地方は全国平均値を上回る場所が多く、中国、四国及び九州地方は下回る場所が多い傾向がある。

(4) 肥満傾向児の出現率の全国平均値との比較 (表8参照)

平成18年度の肥満傾向児率の出現率は男子では11歳の13.85%、女子でも11歳の10.38%で最も高く、反対に男子では5歳の3.53%、女子でも5歳の1.54%で最も低い。また、全国平均と比べると、男女ともに16歳を除く12歳以降において下回っている。

表8 男女別、年齢別、肥満傾向児率の全国値との比較

単位：%

区分	幼稚園	小学校						中学校			高等学校			
	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	
計	石川県	2.54	5.12	4.87	7.66	9.51	10.28	12.15	10.51	7.41	6.13	11.61	11.21	10.13
	全国	2.76	5.08	6.03	8.04	9.72	10.20	10.81	11.76	10.31	10.22	11.81	10.93	11.21
男	石川県	3.53	4.65	4.75	7.67	11.57	13.56	13.85	11.39	7.28	6.23	13.41	12.78	11.05
	全国	2.57	5.42	6.22	8.63	10.83	11.71	11.79	13.29	11.16	11.18	13.52	12.36	12.73
女	石川県	1.54	5.61	5.00	7.66	7.42	6.86	10.38	9.59	7.55	6.03	9.82	9.61	9.20
	全国	2.96	4.71	5.84	7.42	8.55	8.63	9.79	10.16	9.42	9.22	10.06	9.47	9.65

(注) 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上のものである。
 肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)

(5) 痩身傾向児の出現率の全国平均値との比較 (表9参照)

平成18年度の痩身傾向児の出現率は男子では11歳の3.51%、女子では13歳の3.92%が最も高く、反対に男子では6歳の0.00%、女子では7歳の0.33%が最も低い。

表9 男女別、年齢別痩身傾向児率の全国値との比較

単位：%

区分	幼稚園	小学校						中学校			高等学校			
	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	
計	石川県	0.45	0.22	0.26	1.14	1.76	2.21	2.72	2.50	2.35	1.91	2.55	1.69	0.82
	全国	0.42	0.44	0.49	1.04	1.66	2.52	2.59	2.77	2.36	2.11	2.11	1.55	1.31
男	石川県	0.55	0.00	0.20	1.55	1.54	1.46	3.51	1.69	0.87	0.97	2.70	2.18	0.89
	全国	0.41	0.35	0.40	0.99	1.51	2.33	2.52	2.00	1.38	1.47	1.98	1.57	1.38
女	石川県	0.35	0.46	0.33	0.71	1.99	3.00	1.90	3.34	3.92	2.86	2.40	1.18	0.76
	全国	0.42	0.53	0.58	1.08	1.82	2.72	2.67	3.58	3.39	2.78	2.24	1.53	1.24

(注) 痩身傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が-20%以下の者である。
 肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)

2 健康状態

主な疾病・異常被患率の全国平均値との比較(図4・5、別表3参照)

「う歯」の被患率では、幼稚園が1.99ポイント全国平均値を下回っており、小学校が4.51ポイント、中学校が6.97ポイント、高等学校が1.30ポイント全国平均値を上回っている。

「裸眼視力1.0未満の者」の被患率では、小学校が2.24ポイント、中学校が1.31ポイント全国平均値を上回っている。

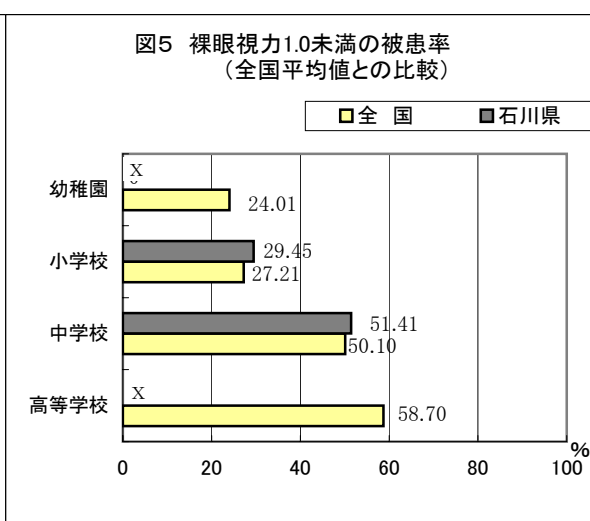
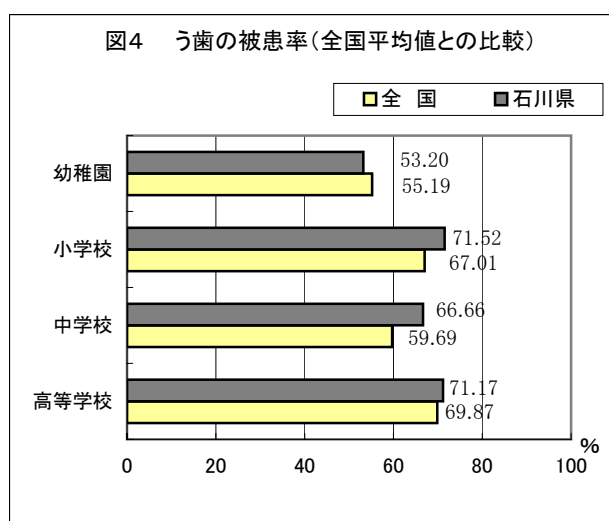


図6 17歳男女平均値の推移

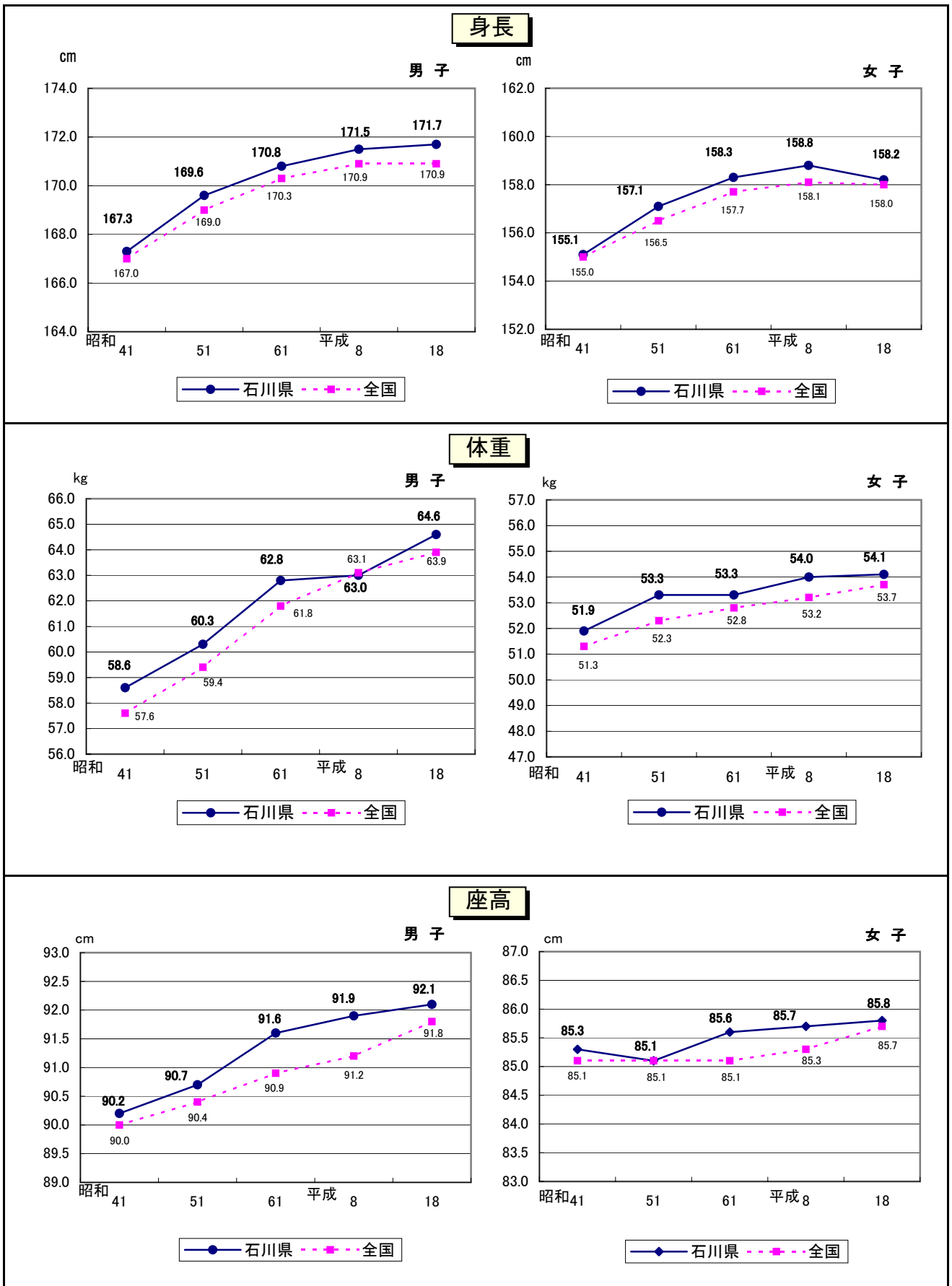
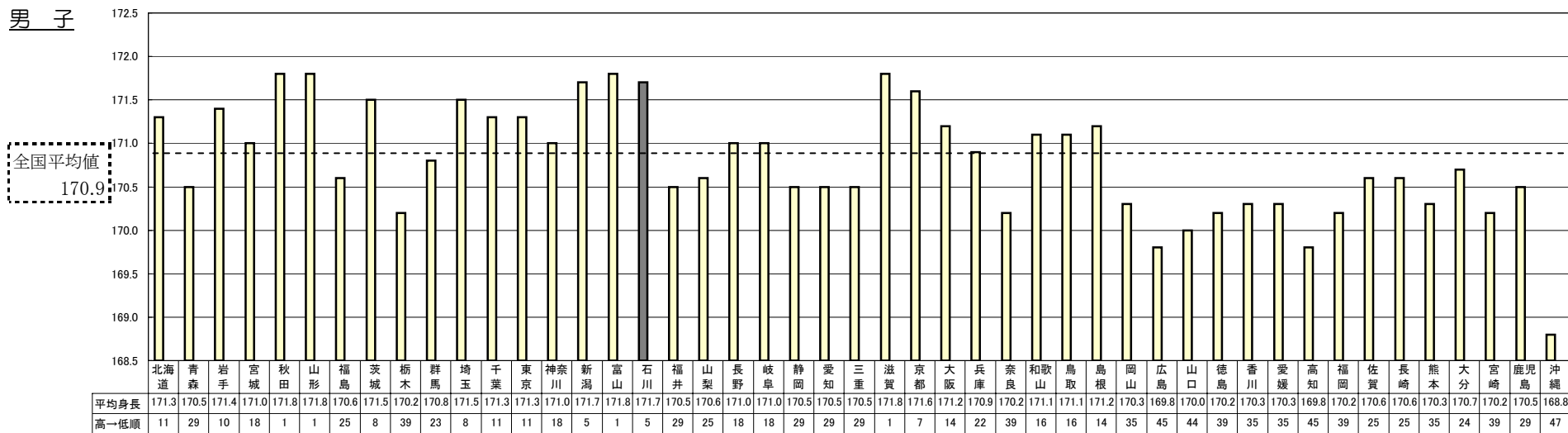


図7 都道府県別17歳の平均身長

男子



女子

